



天文ニュース(No.181)

水星の太陽面通過 2003年4月10日発行

水星が太陽の前を通過する「水星の太陽面通過」という珍しい現象が、2003年5月7日に、日本全国で見られます。

この現象は、1999年11月16日以来4年ぶりで、次回は、2006年11月9日です。

水星の太陽面通過は、水星が太陽と地球の間に入りこみ、太陽・水星・地球の3つの天体が一直線に並んだときにおこります。

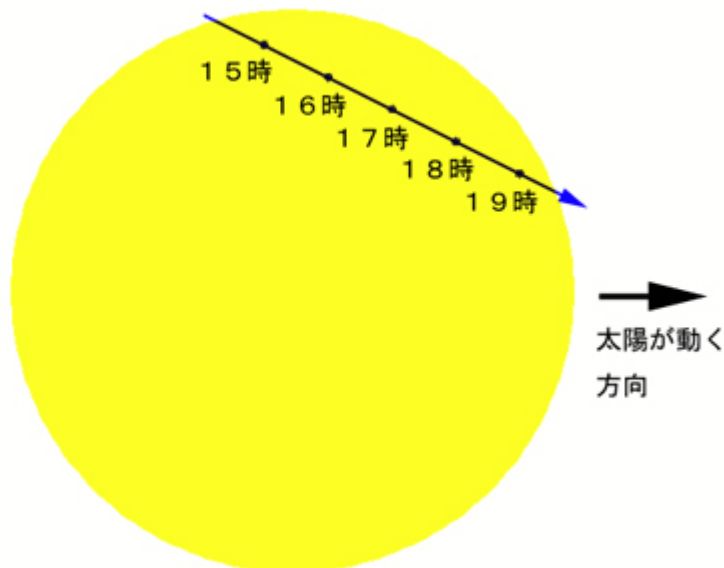
水星は、直径が約4900kmの天体です。

この現象がおこるときに水星を地球から見ると、12秒角の黒い円盤状に見えます。

この大きさは、太陽の見かけの直径の約1/160です。

今回、明石では、14時11分に水星が太陽面に接し、14時16分に完全に太陽面上に重なります。そして、16時51分に水星はもっとも深く入り込みます(食の最大)。その後、19時26分に太陽の縁に接し、19時30分に現象は終了しますが、18時50分には日没になりますので、この現象の最後を見ることはできません。

この現象を観望するには、望遠鏡が必要です。直接太陽面を見ると目が焼けるので危険です。望遠鏡の接眼鏡(アイピース)のうしろに投映板をおいて、その上に太陽像を投映して見るのが安全です。



今回の状況は、左図のとおりです。

明石での見え方

第一接触14時11分

第二接触14時16分

食の最大16時51分

(日没 18時50分)

第三接触19時26分

第四接触19時30分

日没後は見えません

注) 投映した場合には左右が逆になります。

水星の太陽面通過のようす